

## 会 議 録

会議の名称	第2回 日向市上下水道料金等審議会
開催日時	令和6年7月2日（火） 14時00分から15時30分まで
開催場所	日向市浄化センター 会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>審議会委員10名、うち出席者9名</p> <p>学識経験者 宮崎大学地域資源創成学部 学部長 桑野 斉 公認会計士 中村 景子</p> <p>関係団体 日向市区長公民館長連合会 理事 日高辰彦 日向商工会議所 事務局長 野口 洋 日向社会福祉協議会 事務局長 大野 靖文</p> <p>公募市民 出口 貴史 山本 恵子</p> <p>関係行政機関 日向土木事務所 技術次長 浜川 浩一 日向保健所 衛生環境課長 林田 哲也</p> <p>【事務局】</p> <p>上下水道局長 大坪 真司 下水道課長 日吉 知博 下水道課 課長補佐 上杉 幸司 係長 直野 将司、福良 晃宏 係員 加那屋 聡、塩月 かな子</p>
議 題	<p>1) 前回の審議会の振り返り</p> <p>2) 審議会の理念の再確認</p> <p>3) 今後の審議会の進め方</p> <p>4) 施設見学</p>
会議資料の名称 及び内容	<p>会次第</p> <p>説明資料（第1回審議会の修正分）（スライド）</p> <p>説明資料（第2回審議会）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
前回の資料の訂正を事務局から報告	

- ・宮崎市と小林市の最新の決算値の修正
- ・下水道の供用開始以降、一度も使用料改定していないのが、本市だけと説明していたが、串間市も同じ状況であることを報告。

#### 1) 前回の振り返り

##### ①市の状況：下水道事業を取り巻く課題

- ・人口減少に伴う使用料収入の減少、施設の老朽化に伴う大量更新時期の到来、今後の耐震化等の推進
- ・更なる経営改善に向けた取り組み（民間活力導入、更新時における施設のダウンサイジング、審議会で議論を進めていく使用料の適正化の検討）

##### ②市の状況：一般会計からの繰入金

下水道使用料の不足により、基準外となる一般会計からの繰入金を受け入れており、年々増額の傾向にある。

##### ③国の動向：下水道使用料の目標値

「経費回収率 100%を下回っている場合、使用料単価 150 円/m<sup>3</sup>（税抜き）を目指す。」

- \* 「経費回収率」 = 下水道使用料 ÷ 汚水処理費（公費負担部分を除く。） × 100  
使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料でまかなえているかを表した指標

日向市の場合：

令和4年度決算において、経費回収率 92.6%、使用料単価 127.2 円、汚水処理原価 138 円（使用料単価、汚水処理原価ともに、県内各市と比較して最低値）

##### ④国の動向：経営戦略の改定

経営戦略（10年間の財政計画）について、より実効性の高い内容への改定が国から求められている。改定自体が、令和7年度からの国庫補助金の交付要件にもなっている。

##### ⑤その他

一般家庭での費用費用比較で、下水道接続よりも合併浄化槽の方が維持管理費用が高くなっている。そのバランスも下水道使用料の適正水準の参考の1つになる。

##### ⑥理念の共有

- ・公営企業の独立採算制の原則に立ち帰ったあるべき事業経営
- ・世代間、地域間の費用負担の公平性の確保

前回の審議会での意見・質問に対する説明

##### ①事務局の補足説明

下水道事業会計の仕組みについて説明（資料1の7～9ページ）

②汚水処理原価が、各市との比較でも、1番低い理由（資料1の11～12ページ）

$$\text{汚水処理原価（円）} = \text{汚水処理費（円）} \div \text{年間有収水量（m}^3\text{）}$$

汚水処理費：以下の2つから成り立っている。

維持管理費：稼働力費、薬品費、人件費など

資本費：企業債利息、減価償却費など

維持管理費は、令和2、3年度までは、ほぼ横ばい。その後、物価高騰の影響を受けて増加傾向。

資本費は、起債の償還が進んでおり、企業債利息が減少。施設の減価償却費も、施設更新を計画的に平準化して、長寿命化を図っているため、減少傾向にある。

維持管理費は、若干増加しているが、資本費が減少しているため、汚水処理費全体としては、減少傾向にある。

年間有収水量（使用料徴収の対象になる汚水の量）は、やや横ばいで推移。

汚水処理原価としては、減少傾向が続いている。

#### 県内各市との比較

日向市は、人口密度が比較的高い方にある。また、施設利用率も県内で1番高い。

高い数値なので、今の施設をしっかりと効率的に使っていると言える。

維持管理費が、1m<sup>3</sup>あたり83.9円で、県内各市では真ん中の方にあり、比較的効率的な運用ができているのではないかと分析。

資本費についても、1m<sup>3</sup>あたり54.1円で、県内各市では真ん中あたりにある。計画的な施設建設によって、企業債の借入れもある程度抑えられているのかと思う。

以上の2つから、維持管理も資本費も中間の数値であって、これらが合計されて最低値の結果になっていると分析している。

しかしながら、今後は、施設の大量更新や耐震化を進めて行く中で、減価償却費が上昇していくことが想定されている。そのため、汚水処理原価も、今後は増えていくのかな、と心配している。

#### ③これまでの経営状況

公会計制度を導入したのが、平成26年4月。ここで経費回収法の指標が算出されて、他団体との比較ができるようになった。

ただし、当初の経費回収率は、82.85%で良い数字ではなかった。

直ちに使用料改定ではなく、経営努力で改善。具体的には以下のとおり。

- ・施設の更新、新規整備の優先順位の整理（計画的な建設管理で、企業債の借入れが過大にならないように努めてきた。その結果企業債の元利償還金が減少し、現金流出を抑制

できた。)

- ・接続率向上のため、未接続世帯への個別訪問（使用料収入の増加を目指して）
- ・高利率の企業債を繰上償還し、借換えを実施
- ・昨年度実施した下水道区域の縮小により、将来の建設改良費を削減

こういった形で、経費回収率も徐々に増加してきた。

類似団体（日向市と人口や産業構造が類似している市町村）においても、経費回収率の平均値は、1度も100を超えていない。全国的に厳しい状況にあると分析している。

理念の再確認にあたって（今後の経営状況の見通し）

#### ①資料1の16ページ

収益的収支の課題

支出と収入がイコールでは、経営は安定しない。

十分な利益をストックしておいて、最終的に企業債の返済に充てていく。

できれば、基準外繰出金を少しずつ減らすことが、今後の課題の1つと思っている。

#### ②資料1の17ページ

令和15年度までのシミュレーション

令和4年度までの決算状況

汚水処理原価は、138円で、プラスの状況。

#### ③今後の状況

維持管理費：物価高騰の影響とかで徐々に増加していくことを想定。

原価償却費：今後の施設の耐震化や大量更新により、徐々に増加することを想定。

企業債の利息：今後の更新計画、耐震化計画に基づき、金額のシミュレーションを行ったところ、やや緩やかに減少していくという分析結果になった。

今後、施設更新や耐震化を進めていくと、汚水処理費自体の増加が避けられないと分析している。

下水道事業の完了が間もない状況となっている。これ以上、面整備が増えることはない。

新たな下水道接続がほぼなくなってくるので、有収水量も人口減少の影響を受けて減ることが予想される。これにより、汚水処理原価が上がることも考えられる。

経費回収率も減少傾向は避けられない。

#### ④資料1の18ページ

下水道事業運営のこれまで

- ・事業区域拡大で有収水量が増加し、使用料収入も増加。施設の利用率も高い方ではある。
- ・企業債償還の進行により、支払利息も減少。

現行の下水道使用料単価で、経営を見守ってきた。

⑤資料1の19ページ

下水道事業運営のこれから

- ・事業区域の完了により、有収水量は確実に減っていく。
- ・今後の施設・設備の更新、耐震化の推進により、汚水処理費と減価償却費は上昇する。
- ・全体計画区域の縮小により、地域間のバランスの再考が必要。

⑥資料1の20ページ

下水道事業運営のこれまでとこれから

公共下水道の区域の確認

区域の見直し前（令和4年度）

公共下水道と農業集落排水の区域で市の人口の約84%をカバー

↓

区域の見直しの結果（令和5年度）

公共下水道と農業集落排水の区域で市の人口の約64%となった。

残り35%程度は、合併処理浄化槽の区域となることが確定。

区域外の方が収めた税金が、一般会計からの繰入金として使われて、事業経営が成り立っている。説明としては間違っていないが、そのバランスを考えていかないといけない。

2) 審議会の理念の再確認

資料1の22ページ

前回示した理念に、説明の文言を追加。

委員からの質問意見

委員：資料1の16ページで、基準外繰入金が入ってこない、実質赤字の状態というのが非常にわかりやすかった。

基準外の繰入金について、合併処理浄化槽の区域の人たちも平等に負担した税金が、特定の人しかサービスを受けていない下水道事業会計に使われている、これを是正しないとけないことがよく分かった。

委員：2つの理念について、今回説明を受けてわかりやすくなった。市民の方が見てもわかりやすいと思う。家計に置き換えた説明で、理解しやすくなった。

委員：市民にしっかり周知することで、この内容が市長に行き、議会に出て、最終的に使用料が上がるな、と理解してもらえと思う。

理念についても理解はできたが、市民の方は分かりづらいと思うので、どう説明していく

のか見当が必要と思う。

委員：説明は非常にわかりやすかった。今、エネルギー物価高騰になっている中、上下水道料金を上げる説明を、独立採算制の話だけではうまく説明できないと思う。

宮崎市が上下水道料金を値上げする記事を、新聞で読み、そのようなことがあれば、市民の方々も値上げは必然かなと思うのでは。ただ、事業者や経営の方々にどう説明していくのか、もう少し理論武装とか検討したほうが良いかなとは感じた。

委員：今後、高齢者の方々にも説明する場が出てくるとは思う。今日の説明を聞いて、理解できる部分はすごく多い。ただ、高齢者に同じ説明をして理解いただけるか、となると疑問もあるので、もう少し簡略化したもの（財布の使い方の説明）も1つ必要かなと感じた。

委員：他市との比較で、日向市の状況がよく分かった。例えば、能登半島の地震では、耐震化が進んでなかったため、トイレや風呂が使いなかつた苦勞もあると思う。耐震化、老朽化と説明があったが、このような事態が起きたらどのように困るのか、どう復旧するのか、合わせて市民の方にも説明していくと、より分かりやすくなるかな、と思った。

委員：公衆衛生の担保、環境の維持、そういう意味では費用があがるのは致し方ないかと思う。それでは、どれだけ料金が上がるのか、皆さん気になるところかなと思う。そういったところを最終的に議論していかないといけないかなと思う。

最終的に、今回改めて説明した理念に基づき、今後の審議会を進めていくことで、委員の了承をいただいた。

### 3) 今後の進め方（事務局からの説明）

#### ①今後の3回目、4回目の審議について

使用料改定に向けて具体的なシミュレーションを、いくつかのパターンで示しながら審議を進める。

4回目で、答申書の案を出して、内容の確認ができたかと考えている。

委員の皆さんの意見をふまえて、誰もが納得できる答申書をまとめられるようにしたい。最終確認を行った後、市長に答申書を提出するところまで今年度中に進めたいと思う。

#### ②本審議会の会議録の公開方法について

本市の附属機関の指針において、審議の会議録や会議資料を速やかに公開する旨の規定がある。

3回目の審議会において、具体的や使用料改定のシミュレーションが資料に出てくる。この資料を公表したとき、市民の方に不安や混乱を生じさせる可能性がある。

また、このシミュレーションが独り歩きしてしまうことがある。

委員の皆さんの率直な意見交換、立場の中立性、このようなことをふまえて、市長への答

申書がまとめられるまでの間、第1回の審議会からの議事録や資料を、一定期間公開しない形で進めた方が良く考えている。

報道機関についても、市長への答申の際は、出席いただくが、それまでは非公開にしたい。最終的に会議録を公表するときは、発言者名は伏せて公表する。

上記の内容について、委員の賛同をいただいた。

4) 施設見学

浄化センター、汚泥処理場の内部を見学

5) その他

第3回審議会の日程を案内：令和6年8月5日（月）  
会場は、市役所本庁

6) 閉会